

# 夢 塾 だ よ り

～ 「感動」が次の「勇気」に～

(95号) 令和7年6月25日



「日本を代表する建築家」

といえば安藤忠雄さんで

す。独学で建築を学び、28

歳で自分の事務所を構えま

した。彼は『失敗から学び反省して気持ちを切り替えて次に進む。常に走り続けることで、後ろ向きの思考に囚われずやってきた』と語っています。二度にわたり癌の手術を受け五つの臓器をなくしましたが、「病気くらいで生きることをあきらめてたまるか」と仕事に復帰。彼にとって仕事は生きることそのもの、建築を通して社会とつながることが生きる力になりました。「青春とは人生のある時期ではなく、心の持ち方という」という詩を愛し、たとえ八十歳を過ぎても、夢と希望を持ち続ければ最後の日まで自分らしく生きられる。と言っています。また、「人生百年時代」というのは「志」ある限り百年の青春を駆け抜けられるというメッセージだと。ではその「志」はどこから生まれるのか。それは『感動』だと。うつくしいもの、すばらしいものに出合い心が震える。その震えが次の一步を踏み出す『勇気』になる。・・・

私の父は建築家でした。彼の言葉は父の言葉と受け留めています。